

2018/2/13

柏の景気情報（平成30年1月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成30年1月分）

○ 調査期間 : 平成30年1月26日 ~ 平成30年2月6日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	72	46.2%
建設	44	21	47.7%
製造	33	15	45.5%
卸・小売	43	21	48.8%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成30年1月の調査結果のポイント】

◀業況DIは2か月連続改善。先行きは懸念材料多く横ばいの見通し▶

○1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.2(前月水準▲18.3)となり、マイナス幅が3.1ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△20.0(同△18.7)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲18.7)、建設業▲19.0(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲47.6(同▲47.3)である。

【建設業】からは、「必要最小限の費用しか掛けない節約志向を強く感じる。来年の消費税UPを見込んで今年のうちで工事しようとするお客様がちらほら」(一般土木建築工事業)、「受注の見通しはあるが工事単価が高く採算は低い」(電気工事業)、「知り合いの畳店に仕事依頼が以前のようにできるよう、仕事を多く受注する取組みに力を入れたい」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「インバウンド対策として広告全般の勉強会を我々がする必要がある。柏はかかわってくる地域だと確信」(印刷業)、「例年の期末需要の物件が減少」(特殊産業用機械)、「事業者同士コラボと云う考え方もあるけれど、相互にしっかりと責任認識が確立していないと危険」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「客足伸びないが客単価は多少伸びているため今月は何とか昨年並み。路面店の婦人服は高齢化に苦慮。ショッピングセンター・通販・インターネットに流れている感強し」(婦人・子供服小売業)、「そごう跡地利用がはっきりせず客足悪化。専門店街にも今年退店あり。今後さらに悪化の傾向」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「正月需要は年々低下傾向で厳しい。福袋はお菓子・住宅関連の低単価物は好調も、衣料品福袋は昨年7掛け程度の実績。例年より低い気温であったが、冬物衣料は十二月好調だった反動で客数が低下し前年割れ」(各種商品小売業)、「商業施設内及び路面店の撤退・空き店舗が目立つ。消費の冷え込みは企業ごとに異なるが、採用難による人件費の高騰・原材料の高騰・地域の核となっていた店舗の撤退による地域全体の集客力の低下・柏周辺地域の家賃等の諸経費の高止まり等、柏市内での商売が難しい」(食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「米国の株式バブルに世界が感染、中国の旺盛な経済活動の伸びに合わせる大手企業の伸びが目立つ。また、ネット・IoT・EV等の第四次産業革命と正すイノベーション企業の好業績が目立つ。しかし中小企業の改革を伴わない業種はユーフォリアになっているのが大半」(投資顧問)、「昨年オープンした柏の葉周辺のショッピングセンター、ホームセンターの影響が三十年近く続いたホームセンター閉店。一般商品は売上減少したが、新年度用品の販売に着手したため売上はアップしたが販促セールのため利益は低い。大幅な値上げでなく微妙な値上げが続く」(その他の飲食料品小売業)、「相続がらみの売却依頼は多い。これも高齢化によるもの」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「中途採用が順調に進んでいるため人手不足解消の兆しが見えてきた」(一般産業用機械・装置製造業)、「当社も高齢化に伴い、引退者が増え店舗縮小せざるを得ない状態。若手育成は時間がかかるため効率化へ向けた対策をして乗り切る準備中」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「新年度の端境期のため人員不足に拍車がかかる。人件費にコストがかかり過ぎる」(その他の各種商品小売業)、「仕入が値上げしない分送料の負担要請があり負担するようになったので厳しい。人手不足の影響と思われる」(その他の飲食料品小売業)、「人手不足は深刻な状態続く」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

◎仕入高騰

各業種より、「原料が海外取引相場の影響で高騰し続けている」(特殊産業用機械)、「材料価格、段ボールの価格等、仕入値の高騰が続いているが、機械販売単価に反映できないため収益圧迫」(その他の機械・同部品製造業)との声が寄せられた。

◎天候不順(大雪)

各業種より、「22日の積雪の影響で車の事故が発生し大変だった」(機械器具小売業)、「22日に2年ぶりの降雪で野菜単価はさらに高騰するも基本生活商品需要としての食糧品は安定した売上を維持」(その他の各種商品小売業)、「例年より低い気温であったが、冬物衣料は12月好調であったことで反動となり客数が低下し前年割れ」(その他の各種商品小売業)、「低温の影響で客足が鈍り売上が減少」(菓子・パン小売業)、「雪の影響で平日の客足がまばらで遠のいた」(その他の飲食料品小売業)、「今年に入ってから来客数、契約数共に減少。雪や寒気の影響もあると思う」(不動産管理業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲22.8	▲22.2	▲6.2	▲42.8	▲13.3
9月	▲10.0	▲15.0	△15.3	▲45.4	△26.6
10月	▲19.7	▲10.0	±0.0	▲60.0	±0.0
11月	▲23.6	▲19.0	▲6.6	▲50.0	▲12.5
12月	▲18.3	▲20.0	△18.7	▲47.3	▲18.7
1月	▲15.2	▲19.0	△20.0	▲47.6	±0.0
見通し	▲8.3	▲14.2	△26.6	▲33.3	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成30年1月の業況についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15. 2(前月水準▲18. 3)となり、マイナス幅が3. 1ポイント縮小した。

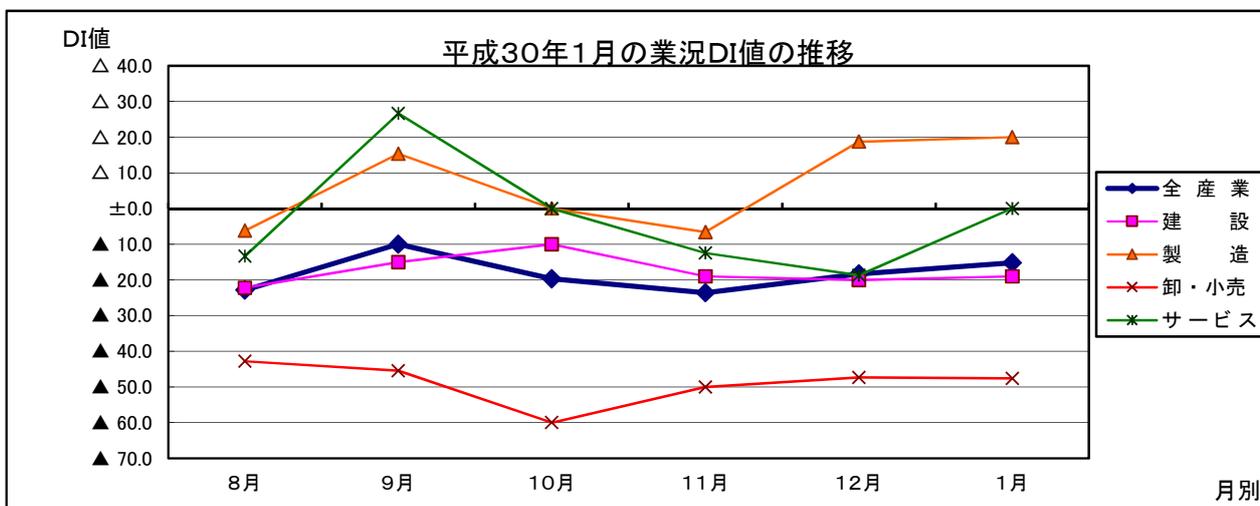
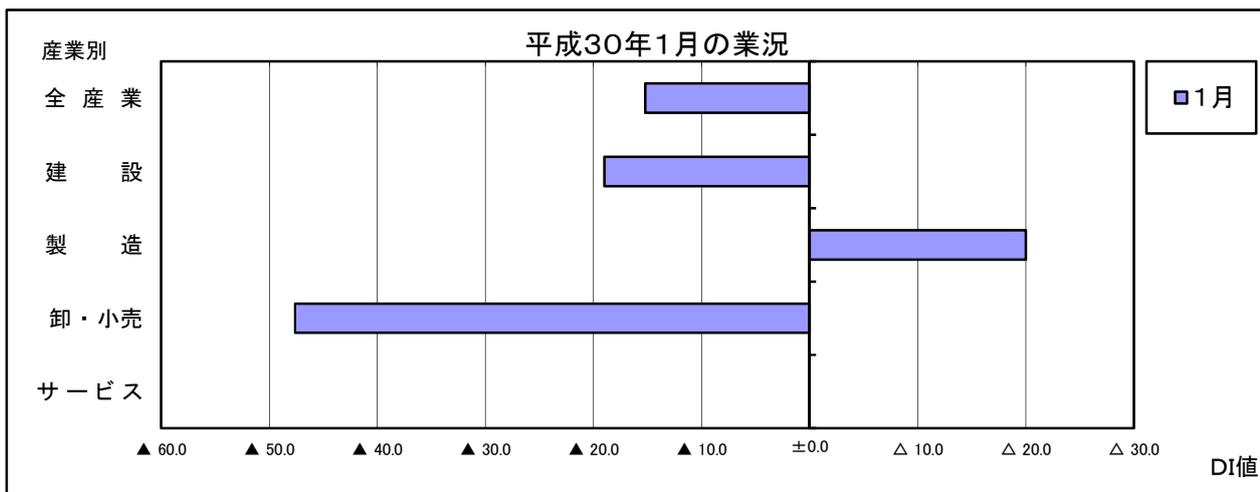
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△20. 0(同△18. 7)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0. 0(同▲18. 7)、建設業▲19. 0(同▲20. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲47. 6(同▲47. 3)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8. 3(前月水準▲14. 0)となり、マイナス幅が5. 7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△26. 6(同△18. 7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0. 0(同▲12. 5)、建設業▲14. 2(同▲20. 0)、卸小売業▲33. 3(同▲36. 8)である。

平成30年1月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 8月	9月	10月	11月	12月	平成30年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲22.8	▲10.0	▲19.7	▲23.6	▲18.3	▲15.2	▲8.3(▲14.0)
建設	▲22.2	▲15.0	▲10.0	▲19.0	▲20.0	▲19.0	▲14.2(▲20.0)
製造	▲6.2	△15.3	±0.0	▲6.6	△18.7	△20.0	△26.6(△18.7)
卸・小売	▲42.8	▲45.4	▲60.0	▲50.0	▲47.3	▲47.6	▲33.3(▲36.8)
サービス	▲13.3	△26.6	±0.0	▲12.5	▲18.7	±0.0	±0.0(▲12.5)



【平成30年1月の売上についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.9(前月水準▲8.4)となり、マイナス幅が1.5ポイント縮小した。

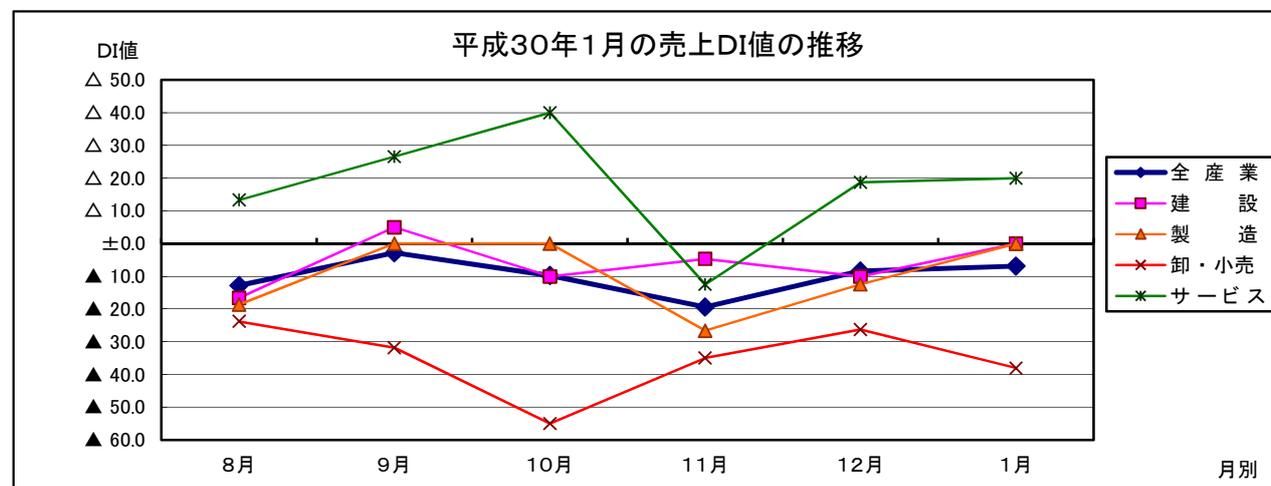
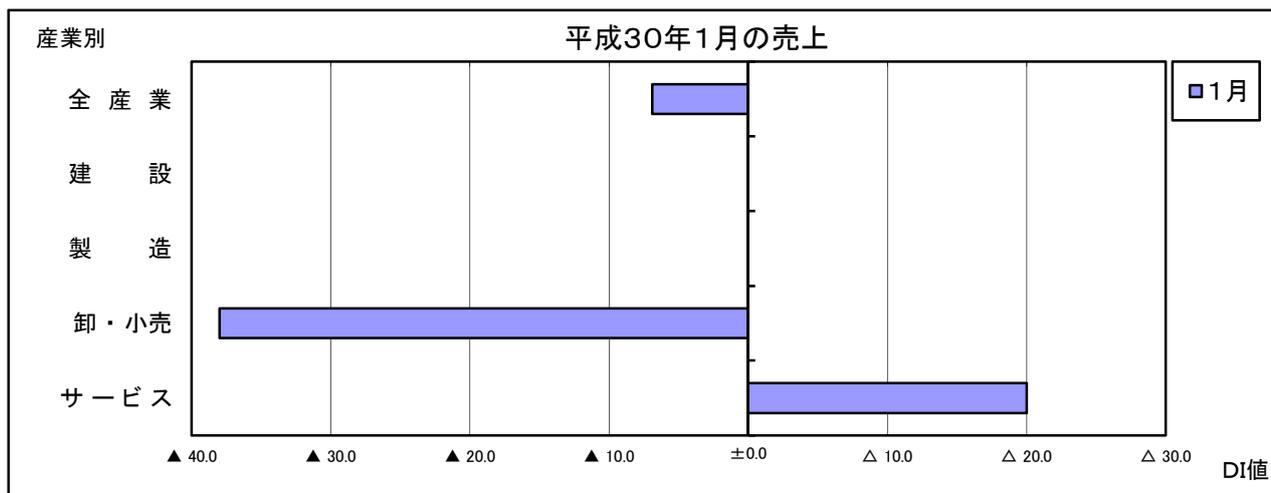
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△20.0(同△18.7)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲12.5)、建設業±0.0(同▲10.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲38.0(同▲26.3)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.1(前月水準±0.0)となり、マイナス幅は4.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△26.6(同△6.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同▲5.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲33.3(同▲21.0)である。

平成30年1月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 8月	9月	10月	11月	12月	平成30年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲12.8	▲2.8	▲9.8	▲19.4	▲8.4	▲6.9	▲4.1(±0.0)
建設	▲16.6	△5.0	▲10.0	▲4.7	▲10.0	±0.0	±0.0(▲5.0)
製造	▲18.7	±0.0	±0.0	▲26.6	▲12.5	±0.0	△26.6(△6.2)
卸・小売	▲23.8	▲31.8	▲55.0	▲35.0	▲26.3	▲38.0	▲33.3(▲21.0)
サービス	△13.3	△26.6	△40.0	▲12.5	△18.7	△20.0	±0.0(△25.0)



【平成30年1月の採算についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22. 2(前月水準▲22. 5)となり、マイナス幅は0. 3ポイント縮小した。

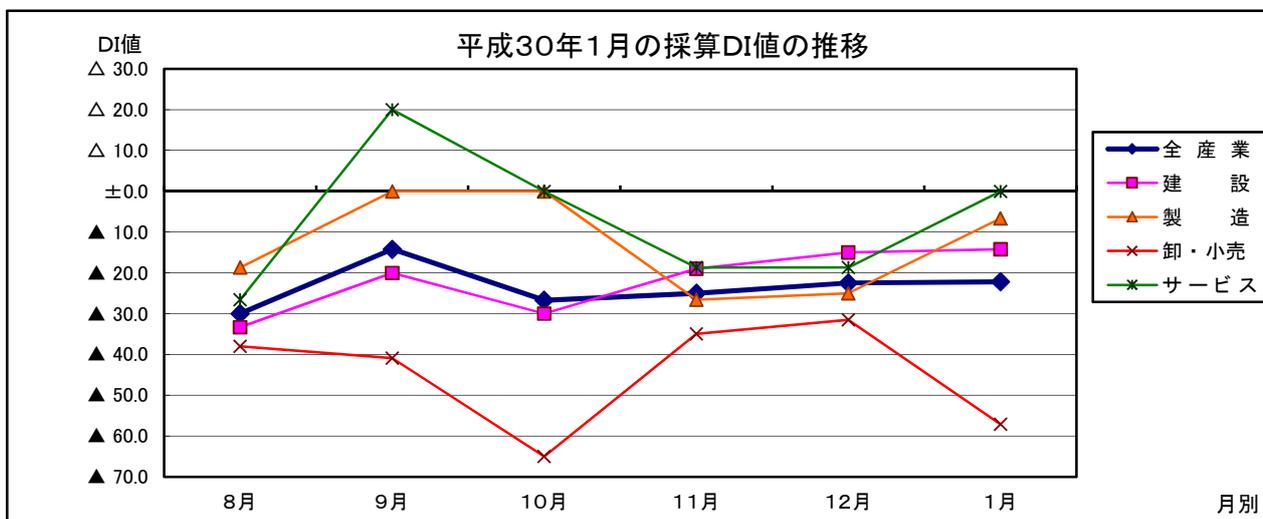
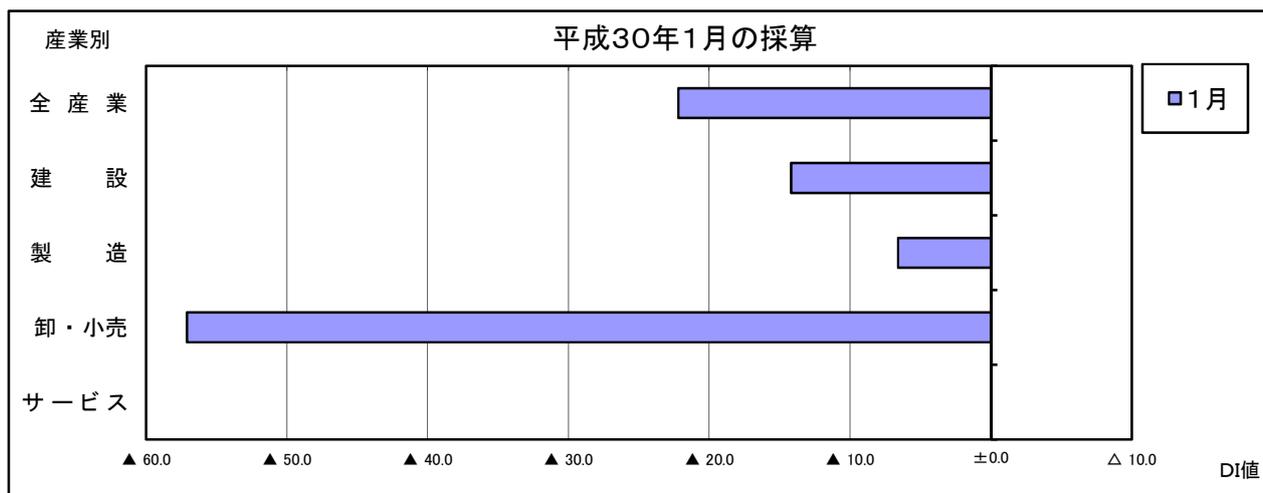
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0. 0(同▲18. 7)、製造業▲6. 6(同▲25. 0)、建設業▲14. 2(同▲15. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲57. 1(同▲31. 5)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19. 4(前月水準▲14. 0)であり、マイナス幅が5. 4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△13. 3(同△6. 2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲9. 5(同▲20. 0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲57. 1(同▲26. 3)、サービス業▲13. 3(同▲12. 5)である。

平成30年1月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 8月	9月	10月	11月	12月	平成30年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲30.0	▲14.2	▲26.7	▲25.0	▲22.5	▲22.2	▲19.4(▲14.0)
建設	▲33.3	▲20.0	▲30.0	▲19.0	▲15.0	▲14.2	▲9.5(▲20.0)
製造	▲18.7	±0.0	±0.0	▲26.6	▲25.0	▲6.6	△13.3(△6.2)
卸・小売	▲38.0	▲40.9	▲65.0	▲35.0	▲31.5	▲57.1	▲57.1(▲26.3)
サービス	▲26.6	△20.0	±0.0	▲18.7	▲18.7	±0.0	▲13.3(▲12.5)



【平成30年1月の仕入単価についての状況】

○1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲44.4(前月水準▲40.8)となり、マイナス幅が3.6ポイント拡大した。

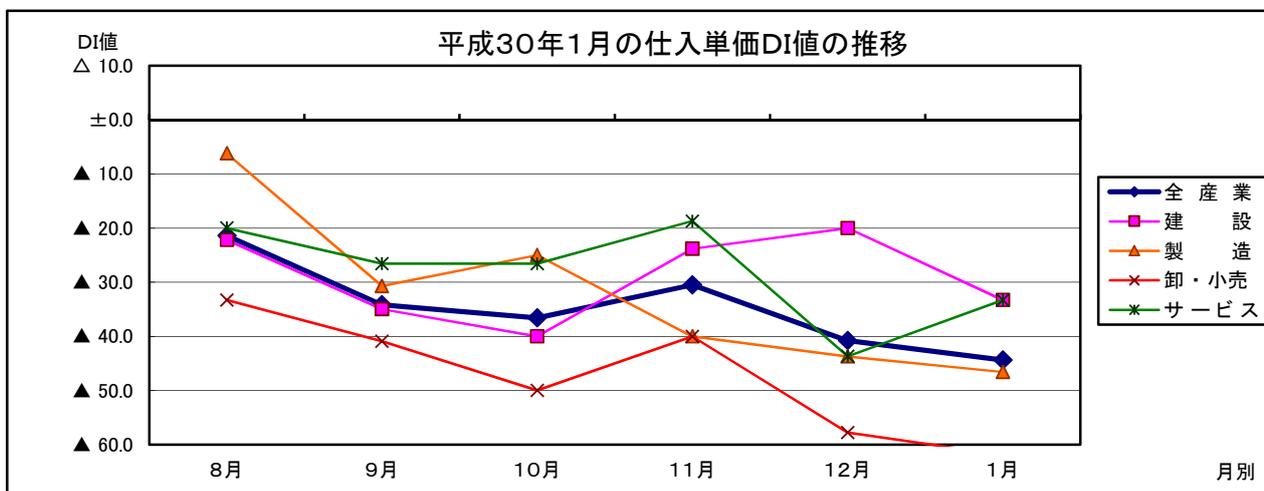
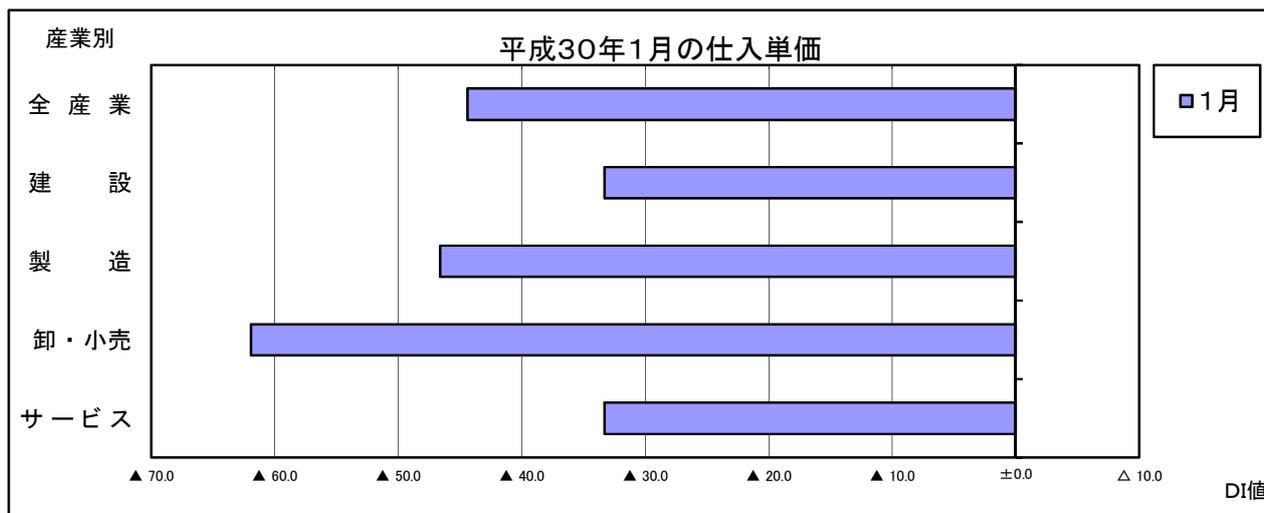
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲33.3(同▲43.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲33.3(同▲20.0)、卸小売業▲61.9(同▲57.8)、製造業▲46.6(同▲43.7)である。

○向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲33.3(前月水準▲36.6)となり、マイナス幅が3.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲13.3(同▲37.5)、卸小売業▲47.6(同▲52.6)、サービス業▲33.3(同▲37.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲33.3(同▲20.0)である。

平成30年1月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 8月	9月	10月	11月	12月	平成30年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲21.4	▲34.2	▲36.6	▲30.5	▲40.8	▲44.4	▲33.3(▲36.6)
建設	▲22.2	▲35.0	▲40.0	▲23.8	▲20.0	▲33.3	▲33.3(▲20.0)
製造	▲6.2	▲30.7	▲25.0	▲40.0	▲43.7	▲46.6	▲13.3(▲37.5)
卸・小売	▲33.3	▲40.9	▲50.0	▲40.0	▲57.8	▲61.9	▲47.6(▲52.6)
サービス	▲20.0	▲26.6	▲26.6	▲18.7	▲43.7	▲33.3	▲33.3(▲37.5)



【平成30年1月の従業員についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△25.0(前月水準△21.1)となり、プラス幅が3.9ポイント拡大した。

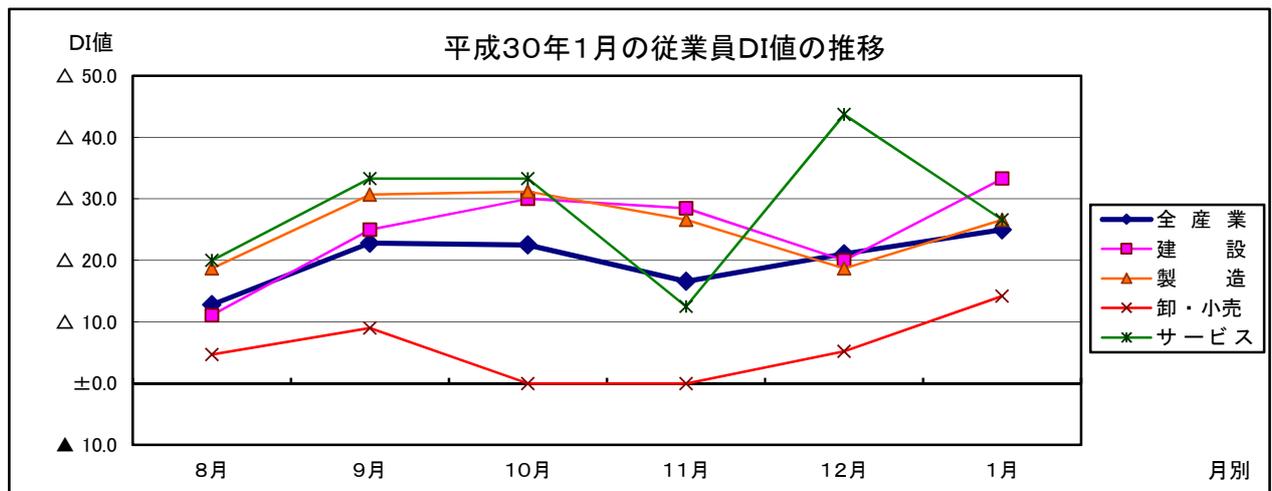
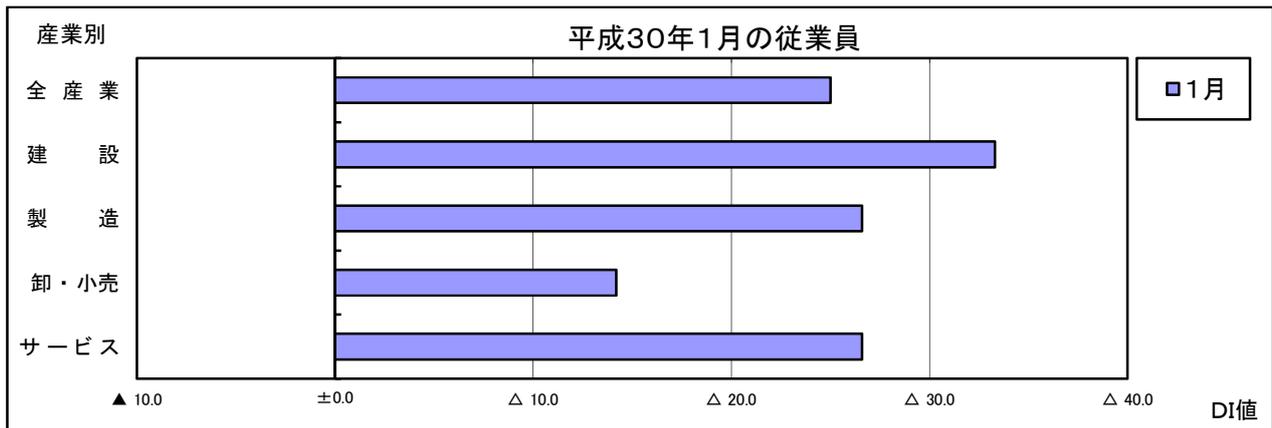
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△33.3(同△20.0)、卸小売業△14.2(同△5.2)、製造業△26.6(同△18.7)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△26.6(同△43.7)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△29.1(前月水準△22.5)であり、プラス幅が6.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△33.3(同△18.7)、建設業△33.3(同△20.0)、卸小売業△23.8(同△10.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△26.6(同△43.7)である。

平成30年1月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 8月	9月	10月	11月	12月	平成30年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	△12.8	△22.8	△22.5	△16.6	△21.1	△25.0	△29.1(△22.5)
建設	△11.1	△25.0	△30.0	△28.5	△20.0	△33.3	△33.3(△20.0)
製造	△18.7	△30.7	△31.2	△26.6	△18.7	△26.6	△33.3(△18.7)
卸・小売	△4.7	△9.0	±0.0	±0.0	△5.2	△14.2	△23.8(△10.5)
サービス	△20.0	△33.3	△33.3	△12.5	△43.7	△26.6	△26.6(△43.7)



【平成30年1月の資金繰りについての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2.7(前月水準▲5.6)となり、マイナス幅が2.9ポイント縮小した。

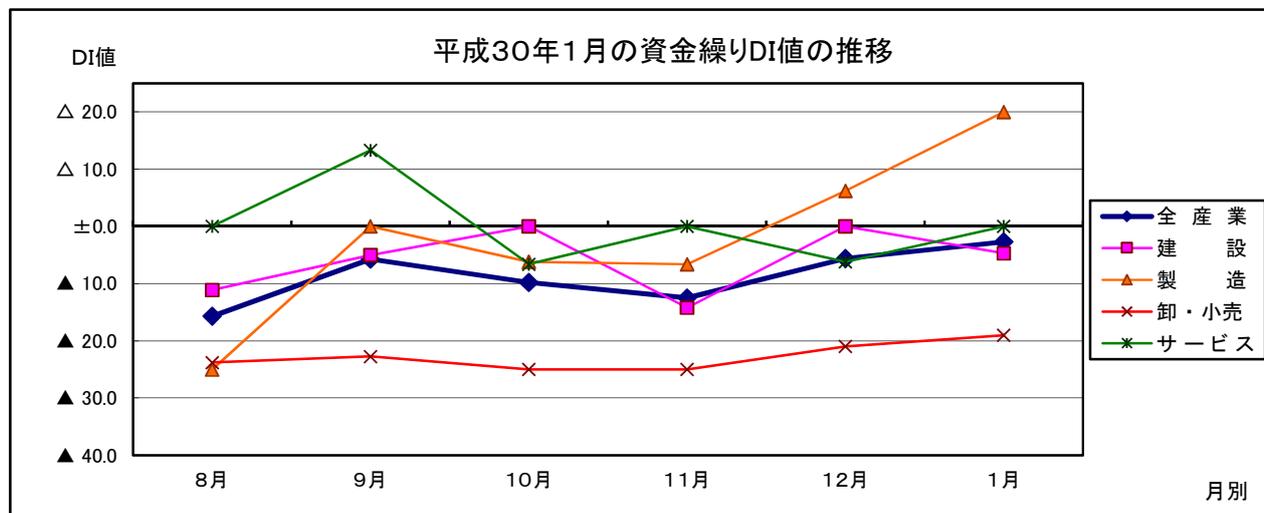
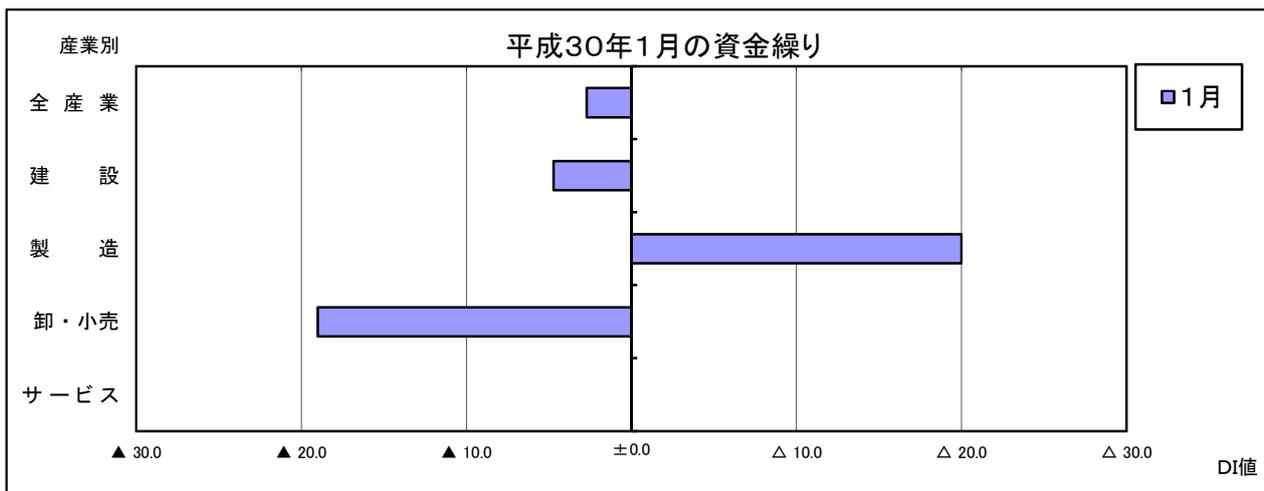
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△20.0(同△6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲6.2)、卸小売業▲19.0(同▲21.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲4.7(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.1(前月水準±0.0)となり、マイナス幅が4.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△20.0(同△12.5)である。変らない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲23.8(同▲10.5)、建設業▲4.7(同±0.0)である。

平成30年1月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成29年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲15.7	▲5.7	▲9.8	▲12.5	▲5.6	▲2.7	▲4.1(±0.0)
建設	▲11.1	▲5.0	±0.0	▲14.2	±0.0	▲4.7	▲4.7(±0.0)
製造	▲25.0	±0.0	▲6.2	▲6.6	△6.2	△20.0	△20.0(△12.5)
卸・小売	▲23.8	▲22.7	▲25.0	▲25.0	▲21.0	▲19.0	▲23.8(▲10.5)
サービス	±0.0	△13.3	▲6.6	±0.0	▲6.2	±0.0	±0.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 6.9	▲ 4.1	▲ 22.2	▲ 19.4	▲ 44.4	▲ 33.3	△ 25.0	△ 29.1
建設	±0.0	±0.0	▲ 14.2	▲ 9.5	▲ 33.3	▲ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
製造	±0.0	△ 26.6	▲ 6.6	△ 13.3	▲ 46.6	▲ 13.3	△ 26.6	△ 33.3
卸・小売	▲ 38.0	▲ 33.3	▲ 57.1	▲ 57.1	▲ 61.9	▲ 47.6	△ 14.2	△ 23.8
サービス	△ 20.0	±0.0	±0.0	▲ 13.3	▲ 33.3	▲ 33.3	△ 26.6	△ 26.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 15.2	▲ 8.3	▲ 2.7	▲ 4.1
建設	▲ 19.0	▲ 14.2	▲ 4.7	▲ 4.7
製造	△ 20.0	△ 26.6	△ 20.0	△ 20.0
卸・小売	▲ 47.6	▲ 33.3	▲ 19.0	▲ 23.8
サービス	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0

【平成30年1月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設	必要最小限の費用しか掛けないという節約志向を強く感じる。また、来年の消費税UPを見込んで今年のうちで工事をしようという考えのお客様がちらほら。	経費節約 消費税増税	一般土木建築工事業
	受注の見通しはあるが工事単価が高く採算は低い。	採算悪化	電気工事業
	1/22の積雪の影響で車の事故が発生し大変だった。	天候不順	機械器具小売業
	知り合いの畳店に仕事の手伝いの依頼が以前のようにできるよう、仕事を多く受注する取組みに力を入れたいと思います。	経営努力	内装工事業
製造業	インバウンド対策として、このタイミングでの広告全般の勉強会を我々がする必要はある。柏はかなりかかわってくる地域だと確信している。	インバウンド	印刷業
	原料が海外取引相場の影響で高騰し続けている。例年の期末需要の物件が減少している。	為替相場 仕入高騰 受注減少	特殊産業用機械
	材料価格、段ボールの価格等、仕入値の高騰が続いている。機械販売単価に反映できないため収益を圧迫している。	仕入高騰 利益圧迫	その他の機械・同部品製造業
	事業者同士コラボと云う考え方もあるけれど、相互にしっかりとした責任認識が確立していないと危険である。簡単には乗れない。	事業コラボ	印刷業
	中途採用が順調に進んでいるため人手不足について解消の兆しが見えてきた。	人手不足	一般産業用機械・装置製造業
卸小売	客足伸びず、単価は多少伸びているが今月は何とか昨年並み。路面店の婦人服は高齢化に苦慮している。ショッピングセンター、通販、インターネットに流れている感強し。	売上横ばい 高齢化の影響	婦人・子供服小売業
	そごう跡地利用がはっきりせず、ますます客足悪化。専門店街にも今年退店者あり今後さらに悪化の傾向。当社も高齢化に伴い、引退者が春にて増え店舗縮小せざるを得ない状態。若手育成は時間がかかるため効率化へ向けた対策をして乗り切る準備中。	そごうの影響 人手不足	時計・眼鏡・光学機械小売業
	正月需要は年々低下傾向で厳しい月間となった。福袋はお菓子・住宅関連の低単価物は好調も、衣料品福袋は昨年の7掛け程度の実績。例年より低い気温であったが、冬物衣料は12月好調であったことで反動となり客数が低下し前年割れ。22日に2年ぶりの降雪で野菜単価はさらに高騰するも基本生活商品需要としての食糧品は安定した売上を維持。	正月不調 天候不順 仕入高騰	その他の各種商品小売業
	新年度の端境期のため人員不足に拍車がかかる。人件費にコストがかかり過ぎる。	人手不足	その他の各種商品小売業
	ここ1～2年、商業施設内及び路面店の撤退・空き店舗が目立つようになった気がします。消費の冷え込みは企業ごとに実感が異なると思いますが、採用難による人件費の高騰・原材料の高騰・地域の核となっていた店舗の撤退による地域全体の集客力の低下・柏周辺地域の家賃等の諸経費の高止まり等、柏市内での商売が難しい業種が増えてきたのではないのでしょうか。	人手不足 仕入高騰 集客低下	各種食品小売業
低温の影響で客足が鈍り売上が減少した。	天候不順 売上減少	菓子・パン小売業	
サービス業	米国の株式パブルに世界が感染、中国の旺盛な経済活動の伸びに合わせる大手企業の伸びが目立つ。また、ネット、IoT、EV等の第4次産業革命と正すイノベーション企業の好業績が目立つ。しかし中小企業の改革を伴わない業種はユーフォリアになっているのが大半か。	海外経済の影響 技術革新好調	投資顧問
	昨年オープンした柏の葉周辺のショッピングセンター、ホームセンターの影響か30年近く続いたホームセンター閉店。雪の影響で平日の客足がまばらで遠のいた。このため一般商品の売上が減少したが、新年度用品の販売に着手したため売上はアップしたが販促セールのため利益は低い。大幅な値上げでなく微妙な値上げが続く。また、値上げしない分送料の負担要請があり負担するようになったので厳しい。人手不足の影響と思われる。	大型店出店の影響 天候不順 採算悪化 人手不足	その他の飲食料点小売業
	今年に入ってから来客数、契約数共に減少しています。雪や寒気の影響もあると思います。相変わらず相続がらみに売却依頼は多いです。これも高齢化によるものと思われる。	売上減少 天候不順 高齢化の影響	不動産管理業
	人手不足は深刻な状態続く。	人手不足	ソフトウェア業

平成30年1月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.2に対し、「CCI-LOBO」が▲14.4で柏の方がマイナス幅が0.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.9に対し、「CCI-LOBO」が▲10.3で柏の方がマイナス幅が3.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、10ポイント以上良い。変わらない業種は、製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.2に対し、「CCI-LOBO」が▲15.3で柏の方がマイナス幅が6.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲44.4に対し、「CCI-LOBO」が▲41.4で柏の方がマイナス幅が3.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・製造業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△25.0に対し、「CCI-LOBO」が△23.9で柏の方がプラス幅が1.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業・卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲2.7に対し、「CCI-LOBO」が▲9.8で柏の方がマイナス幅が7.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業であり、製造業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (1月速報)

調査期間：平成30年1月16日～22日

調査対象：全国の422商工会議所が3872企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、緩やかな回復
基調続くも、足元で一服。先
行きはほぼ横ばい

1月の全産業合計の業況DIは、▲14.4と、前月から▲1.1ポイントの悪化。電子部品や産業用機械、自動車関連を中心とした生産や、インバウンドを含めた観光需要は堅調に推移するものの、深刻な人手不足の影響に加え、鉄鋼、農産物などの仕入価格や燃料費の上昇による収益圧迫から、建設業や飲食・宿泊業などサービス業の業況感が悪化した。ただし、「好転」から「不変」への変化も押し下げ要因となったことに留意が必要。中小企業の景況感は、総じて緩やかな回復基調が続いているものの、足元で一服感がみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲13.6（今月比+0.8ポイント）とほぼ横ばいを見込む。個人消費の持ち直しやインバウンドを含めた観光需要拡大、輸出や設備投資の堅調な推移、補正予算などへの期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響拡大や、原材料費・燃料費・運送費の上昇、コスト増加分の販売価格への転嫁遅

れを懸念する声も多く、中小企業の業況感はほぼ横ばいで推移する見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「鉄骨等の建材価格や燃料費、人手不足に伴う人件費、外注費の増加が続いている。予算額を超えてしまう工事が増えており、採算確保が厳しくなっている」（一般工事業、「工場やビルといった設備投資需要が多く、売上は改善。今後は東京オリンピックやリニア中央新幹線等の波及効果が期待でき、見通しも明るい」（建築工事業

【製造業】「インバウンド需要に加え、越境EC（インターネット通販サイトを通じて国際的な電子商取引）が好調で、取引先の化粧品業界からの受注が増加している。そのため、能力増強を目的とした設備投資を急ぎよ実施し

た」（紙製食品製造業）、「引き合いは多いが、人手不足で対応できず、短納期の案件は断らざるを得ない。人手不足を解消するため、求人募集をかけているものの、全く応募が無し」（金属加工機械製造業）

【卸売業】「取引先の自動車業界からの受注が多く、増収増益が続く。従業員の長時間労働の削減に取り組み、さらなる採算改善を目指す」（産業用機械卸売業）、「白菜やキャベツが11月以降の冷え込みで不作となり、仕入価格が高騰している。急激な上昇で価格転嫁が間に合わず、採算悪化となった」（農産物卸売業）

【小売業】「消費者の低価格志向から売上が伸び悩んでいることに加え、人件費や電気代などが増加し、採算が採れなくなっている」（スーパーマーケット）、「中国人などのインバウンド需要が好調で、売上は改善。さらなる売上増に向け、スマートフォンを利用したキャッシュレス決済システムを導入した」（百貨店）

【サービス業】「配送需要は多いが、軽油価格が昨年1月から、1リットル当たり14円以上上昇している。当社では軽油価格が1リットル当たり

10円増加すると、月100万円の経費増となり、収益を圧迫される」（運送業）、「省力化を目的とした企業のIoT投資が増加しており、売上は改善。受注量の増加に伴い、人手不足が顕著となってきたため、賃上げを実施し、人材確保を図る」（ソフトウェア業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲18.2	▲14.2	▲6.9	▲17.0	▲36.3	▲17.2
9月	▲15.3	▲7.4	▲10.1	▲19.2	▲31.4	▲10.8
10月	▲16.0	▲11.4	▲9.3	▲13.1	▲34.6	▲12.8
11月	▲14.9	▲10.0	▲4.2	▲24.3	▲31.7	▲10.9
12月	▲13.3	▲7.4	▲6.7	▲17.4	▲25.8	▲11.5
1月	▲14.4	▲13.6	▲5.1	▲12.2	▲25.2	▲16.1
見通し	▲13.6	▲14.4	▲3.4	▲13.8	▲24.7	▲13.8

柏の景気情報

(1月の調査結果のポイント)

調査期間：平成30年1月26日～2月6日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数72件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲22.8	▲22.2	▲6.2	▲42.8	▲13.3
9月	▲10.0	▲15.0	△15.3	▲45.4	△26.6
10月	▲19.7	▲10.0	±0.0	▲60.0	±0.0
11月	▲23.6	▲19.0	▲6.6	▲50.0	▲12.5
12月	▲18.3	▲20.0	△18.7	▲47.3	▲18.7
1月	▲15.2	▲19.0	△20.0	▲47.6	±0.0
見通し	▲8.3	▲14.2	△26.6	▲33.3	±0.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iは2か月連続改善。先行きは懸念材料多く横ばいの見通し

1月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.2(前月水準▲18.3)となりマイナス幅が3.1ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△20.0(同△18.7)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲10.0(同▲18.7)、建設業▲19.9(同▲20.0)である。

マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲47.6(同▲47.3)である。

【建設業】からは、「必要最小限の費用しか掛けない節約志向を強く感じる。来年の消費税UPを見込んで今年のうちで工事しようと考えているお客様がちらほら」(一般土木建築工事業)、「受注の見通しはありますが工事単価が高く採算は低い」(電気工事業)、「知り合いの畳店に仕事依頼が以前のようにできるよう、仕事を多く受注する取組みに力を入れた」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「インバウンド対策として広告全般の勉強会を我々がする必要がある。柏はかかわってくる地域だと確信」(印刷業)、「例年の期末需要の物件が減少」(特殊産業用機械)、「事業者同士コラボと云う考え方もあるけれど、相互にしっかりと責任認識が確立していないと危険」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「客足伸びないが客単価は多少伸びているため今月は何とか昨年並み。路面店の婦人服は高齢化に苦慮。ショッピングセンター・通販・インターネットに流れている感強し」(婦人・子供服小売業)、「そこそこ跡地利用がはつきりせず客足悪化。

専門店街にも今年退店あり。今後さらに悪化の傾向」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「正月需要は年々低下傾向で厳しい。福袋はお菓子・住宅関連の低単価物は好調も、衣料品福袋は昨年の7掛け程度の実績。例年より低い気温であったが、冬物衣料は十二月好調だった反動で客数が低下し前年割れ」(各種商品小売業)、「商業施設内及び路面店の撤退。空き店舗が目立つ。消費の冷え込みは企業ごとに異なるが、採用難による人件費の高騰・原材料の高騰・地域の核となっていた店舗の撤退による地域全体の集客力の低下・柏周辺地域の家賃等の諸経費の高止まり等、柏市内での商売が難しい」(食品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「米国の株式バブルに世界が感染、中国の旺盛な経済活動の伸びに合わせる大手企業の伸びが目立つ。また、ネット・IOT・EV等の第四次産業革命と正すイノベーション企業の好業績が目立つ。しかし中小企業の改革を伴わない業種はユーフォリアになっているのが大半」(投資顧問)、「昨年オープンした柏の葉周辺のショッピングセンター、ホームセンターの影響が三十年近く続いたホームセンター閉店。一般商品は売上減少したが、

新年度用品の販売に着手したため売上はアップしたが販促セールのため利益は低い。大幅な値上げでなく微妙な値上げが続く」(その他の飲食料品小売業)、「相続がらみの売却依頼は多い。これも高齢化によるもの」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎天候不順(大雪) 各業種より、二十二日の積雪の影響で車の事故が発生し大変だった」(機械器具小売業)、「2年ぶりの降雪で野菜単価はさらに高騰するも基本生活商品需要としての食糧品は安定した売上を維持」(各種商品小売業)、「例年より低い気温であったが、冬物衣料は十二月好調であったことで反動となり客数が低下し前年割れ」(各種商品小売業)、「低温の影響で客足が鈍り売上が減少」(菓子・パン小売業)、「雪の影響で平日の客足がまばらで遠のいた」(飲食料品小売業)、「今年に入ってから来客数、契約数共に減少。雪や寒気の影響もあると思う」(不動産管理業)との声が寄せられた。

二月の景気キーワード

◎人手不足

各業種より、「中途採用が順調に進んでいるため人手不足解消の兆しが見えてきた」(一般産業用機械・装置製造業)、「当社も高齢化に伴い、引退者が増え店舗縮小せざるを得ない。若手育成は時間がかかるため効率化へ向けた対策を講じて乗り切る準備中」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「新年度の端境期のため人員不足に拍車がかかる。人件費にコストがかかり過ぎる」(その他の各種商品小売業)、「仕入が値上げしない分送料の負担要請があり負担するようになったので厳しい。人手不足の影響とされる」(その他の飲食料品小売業)、「人手不足は深刻な状態続く」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

◎仕入高騰 各業種より、「原料が海外取引相場の影響で高騰し続けている」(特殊産業用機械)、「材料価格、段ボール価格等の仕入値高騰が続いているが、機械販売単価に反映できないため収益圧迫」(機械・同部品製造業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-TOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲15.2に対し、「CCI-TOBO」が▲14.4で柏の方がマイナス幅は0.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。